

みどりの風

Noseiren Dayori Midori no Kaze

9 月号 No.225

発行／熊本県農業者政治連盟

JA 熊本県会館内 熊本市南千反畑町2-3
電話 096-328-1284
編集責任者 木村 幸孝
発行／毎月1回 15日発行
平成9年7月4日第三種郵便物許可



岳の湯温泉（小国町：写真提供 熊本県）

湧蓋山の麓にある温泉地で、いたるところから湯けむりが昇っており、「蒸気の里」として有名です。この天然蒸気を、地元民が調理や暖房など日常生活にも利用している素朴な山里の温泉郷である。

主な内容

- ・熊本県 JA グループ農業経営危機突破大会
- ・JA 阿蘇青壮年部活動
- ・ガンバッテいます：吉良邦夫さん、南部智子さん
- ・各連合会からのお知らせ

や
や
ら
さ
い

「教頭先生は、教頭になる試験に通るために、お金を使ってお願いをしてしまい、社会のルールを破りました。」小学校の終業式に、校長は苦笑のすえ、子供たちに話した。教頭の任用試験で、商品券を送ったとする女性教頭は、警察署での事情説明後、欠勤を続けている。

「教頭は誘惑に負けた悪い人間です。君たちは正しい行いのできる勇気ある人になってください。」男性教頭は書き置きを残し、以後出勤していない。大人たちは身勝手な理屈で、姿を隠してしまつた。

今回の大分県教員汚職は、その規模と内容の悪質さで、他の類を見ない。

取賄罪に問われた元県教委義務教育課・江藤被告は「十八年、十九年の小学校教員採用試験合格者八十二名の内、少なくとも三十名の得点を水増しした。」と供述している。

「上層部からの指示を断れば、出世ルートから外れる。汚れ役をやれば出世できると思った。」県教委内では採用担当者が「汚れ役」を担う慣行が出来ていたのである。

そしてこれらの不正は、教頭、校長の任用試験でも行われており、常態化していた。

更に、教員採用や昇任人事には「口利き」が横行していた。国会議員、県議、県教委職員、組合役員や大学等からもあったという。担当者は上司から推薦リストをもらい、一時試験結果リストの備考欄に、推薦者の名前を記入していたのである。

加えて、「教員の色濃い身内意識」がある。教員は、校長会・指導主事会など実にきめ細かく組織化され、学校を中心とした社会から外れることを、特に心配していたという。

しかしながら今回の事件の一番の被害者は、学校の子供たちである。今大人は、子供たちの心の傷を癒すために、全力を尽さなければならぬ。

熊本農業の生き残りをかけて



熊本市上通りから辛島公園までをシュプレヒコール



3,300人が結集してのガンバロウ三唱

8月30日、白川公園で、熊本県JAグループ農業経営危機突破大会を開催。農業者・JA役員ら3,300人が結集して県や国に危機打開のための対策を要請。また、熊本県JAグループは、熊本県経済連を中心に11億円の緊急支援対策の実施を決定。

今、原油価格上昇による重油や肥料・ビニール等生産資材価格の高騰、さらには輸入穀物を主原料とする配合飼料価格の高騰などにより、生産コストは急激に上昇している。生産者は、省エネ対策の実施や有機肥料の実施など、コスト削減に懸命に取り組んでいるものの重油、肥料、飼料価格等の急騰はもはや生産者の努力の限界を超え、きわめて厳しい経営を強いられている。この危機を打開し、農家の営農と生活および国民の食料の安定供給体制を維持・確立するために、国・県に対し、支援と対策を訴えると共に県民への理解を得るために開催された。

主催者として園田JA中央会会長は、「コスト削減は限界、このままでは農業が崩壊する」と弱状を訴えた。

続いてJA熊本経済連上村



熊本県農業経営危機突破大会の主催者挨拶するJA熊本中央会園田俊宏会長

会長が①生産コストに着目した経営安定対策の確立、②飼料・燃油等の生産資材高騰対策資金の創設、③営用A重油価格上昇に対する補填制度の創設、④省エネ・低コスト生産に向けた支援対策の充実・強化について、代表要請をおこなった。

また、普通、園芸、果樹、畜産の生産者代表が生産現場の窮状を訴え、燃油、飼料、肥料など価格高騰への取り組み強化に関する大会決議を採択するとともに、ガンバロウ三唱で氣勢を上げた。

その後、熊本市上通りから下通りを抜けて辛島公園まで、「食料と農業を守る」などのシュプレヒコールで消費者に窮状を訴えた。

この大会を前に、熊本県内で7月25日のJA阿蘇をかわきりに、各地区で「経営危機突破大会」を開催、全国でも8月26日、砂防会館で「原油・肥料・飼料高騰対策全国代表者緊急集会」を行い国や国会議員への要請をおこなった。



①・⑧熊本県農業経営危機突破大会会場。②シュプレヒコール。③トラクターが先導してデモ行進。④来賓挨拶される野田衆議院議員。⑤来賓挨拶される浦島知事。⑥燃油・飼料・肥料等生産資材高騰対策について JA グループを代表して要請される JA 熊本経済連上村会長。⑦「農業をつぶすな」などシュプレヒコールをあげながら下通りアーケードを行進する生産者、JA 役職員。⑨決意表明。⑩・⑪各地区で「経営危機突破大会」を開催（阿蘇決起大会会場）。⑫・⑬ 8/26 日・全国代表者緊急集会（東京）。

J A阿蘇 青壮年部活動



J A阿蘇青壮年部は、7支部盟友数340名で構成されています。地域農業の担い手として、雄大な阿蘇の恵まれた大自然の気候風土を生かし、確かな品質と変わらぬおいしさで、特裁米、畜産、果樹、野菜、特産物の生産に、先頭に立って尽力しています。

また、組織の充実強化と盟友の親睦及び資質の向上を図るための活動や、農業の素晴らしさをつたえるための子ども達を対象とした、「食と農業」の大切さを伝える食農教育にも、積極的に参加しています。

私たちの主な活動内容として、盟友全員が参加できるスポーツ交流会、JA役員・部長との対話集会、そして平成12年から続けている北海道上川地区青年部（友好締結）との交流会、また、支部で行われている活動に取り組んでいるJUNOです。

今、農業はかつてない危機に瀕しています。今こそ、JA青壮年部が立ち上がり、将来、子、そして孫達へ素晴らしい阿蘇の農業・自然を残し、明るい未来のため、盟友一同頑張ってください。よろしくお願いします。

【写真説明】

- ①子供達に「食・農・環境」をテーマに、食べ物を作る農業の大切さと、大変さを体で感じてもらうため、キッズスクールに参加しています。
- ②資材高騰による農業の危機突破大会へ、危機的状況にある農業の経営安定と食糧自給率向上を目指し、大勢の盟友が参加しました。
- ③毎年多くの盟友が参加するスポーツ交流会。19年度はボーリング大会を開催し、終了後はお楽しみみの親睦会で大いに盛り上がりました。
- ④北海道上川地区青年部との交流会は、毎年お互いの農業技術の向上と農業振興策などを意見交換しています。今年度はJA阿蘇青壮年部が視察に伺います。



がんばってバッチリです

吉良 邦夫さん
JA熊本うき



デコボンハウスの前で

●柑橘栽培二十年
宇城市不知火は、不知火、海の火祭り、特産品では、デコボン、トクアミ（イカ）で有名。

吉良さんは、昭和四三年七月生まれ。熊本農高を卒業。農業を継ぐ前に、異業種の勉強をして、視野を広めたが、いと先輩に勧められ、専門学校の情報処理を学びました。両親と、4Hクラブ活動で知り合った奥さんと四人で、柑橘栽培。ミカン極早生六十a、早生100a、デコボン100aの果樹園を経営しています。

●計画的な柑橘木の植替え

父から五年前に経営移譲された吉良さんは、この地が、柑橘栽培には最適と話されました。現在、「豊福」「肥の明かり」「肥の豊」など新品種の苗木へ、計画的に切替えをおこなっています。

苗木から成木して、本格的に収穫できる

までは、五年はかかります。

しかし、自分のライフサイクル等を考えると、収益が落ちても「今」が最適といわれます。

糖度は、センサーで測って出荷します。大差はありませんが、最近、ミカンの色艶で値段が変わるそうです。

特に、今年は天候不順で、色づきが遅れているとのことでした。

●農家に元気を

不知火地区の若い盟友十二名で、安全・安心なミカンづくりに頑張っています。

しかし、愛媛産の増加や、昨今の原油高による資材高騰などで価格が安定せず、苦慮しています。

今後は、ミカンの「グレードアップ」のため、新品種への切り替えを勧めようとしています。

また、今季のようなスコールの雨は、土の表面だけで、地面のままで浸透しない。このため雨が浸透しやすい土壌改良や、根の成育にも工夫を凝らし、盟友とともに「元気のある地域づくり」をめざしています。

●青壮年部の活動

不知火地区の青壮年部は、小学一・二年生に「芋の苗植えから芋掘りまで」、小学校五年生は「田植えから稲刈りまで」を体験させる企画・指導をしています。

「将来を担う子供たちが、自分の住んでいる地域に『愛着』と『誇り』を持ち、地域を変えて行く『原動力』となるように、『食』と『農』の大切さを、子供たちに教えていきたい」と抱負を語っています。

南部 智子さん

JA熊本うき下北支所フレッシュミズ



B&G 海洋センター前にて

南部さんは、もともと山鹿市（鹿央町）出身。小、中、高校と山鹿で過ごし、熊本市内の一般企業へ就職しました。そこで今のご主人（潤一さん）と出会い、結婚。現在では二人の子供に恵まれています。

●研究所勤めから農業へ

実家は農家でしたが、最初は市内の臨床検査研究所に就職しました。結婚後一度は退職し、また他の企業に勤めていました。

実はご主人の実家も農家で、ご主人はいずれは就農したい、と思っていたそうです。そしてついに結婚後四年目に就農しました。

今ではご夫婦で米を2ha、麦4.2ha、大豆17.7a、ミニトマト22.2a、アスパラ15.5aを栽培。リタイアされたご両親の跡をしっかり受け継いでいます。

●フレッシュミズでの活動

南部さんが所属する下北支所のフレッシュミズには、現在十名の会員で活動をしています。

一昨年までは会員は四名のみ。活動は、JA熊本うきフレッシュミズの活動に参加するだけでした。

周囲への熱心な声掛けの甲斐あって、去年六名増員。下北地区のみの活動も出来るようになりました。去年からは年に六回、奇数月に開催しています。

特別な活動は、毎年参加しているうきフレッシュミズ交流会ミニバレーです。今年は九月十日に開催とのこと。本番間際ということもあり、取材中も皆さん暑い中、ボールを楽しそうに打ち合っていました。

●今後の期待と抱負

南部さんは、今後の抱負として、「会員数を増やし、子育て、仕事、家庭内等について気軽に話せて、相談できる様な場にした。そして、フレッシュミズ活動をきつかけにして、女性部、JAの活動にも興味を持ち、参加や協力してくれる様になればと期待しています。」



バレー大会に向けて（右端）

「2008年台湾美食展」に熊本
「美食展」として出店、輸出促進へ

J Aグループ熊本等で構成する熊本県農畜産物輸出促進協議会（会長：園田俊宏 J A 中央会会長）は8月15日～18日、台湾台北市で開かれた第19回「2008年台湾美食展」の美食名店街に、「熊本美食展」として出店し、本県産農産物や加工品等をPRしました。J A 熊本中央会・J A 菊池・調理師6人が参加しました。

今回は果実や牛乳、デコボンゼリー等の他に、J A 菊池の「菊池米」をPR、試食として海苔・じゃこ・高菜おにぎり等を振るまいました。

同協議会では2005年設立以来、台湾・香港等東アジアで積極的に国際食品フェア等に参加しています。



おにぎりの試食会で行列をなす来場者

「あぐりんツアー」農業体験
in阿蘇 実施



J A 熊本中央会は8月23日（土）、2008年度第1回「あぐりんツアー」農業体験 in阿蘇 を実施、親子ペアー20組（40人）が参加し、トマト収穫等を体験しました。

この事業は、親子（小学生を対象）での農業体験を通して、「農業・農村・J A」への理解を深めてもらうものです。

まず J A 阿蘇職員の案内で、さっそく阿蘇市の田島重成さんのハウスでトマト収穫体験。

その後、トマト選果場を見学、昼食は、J A 女性部が作った高菜ごはんやトマト料理で、阿蘇の味を満喫しました。

午後からは、小国町の小田清さんのジャージ牛の牧場を見学し、餌やり等を体験。最後にバター作りにも挑戦しました。また、帰りのバスでは、「野菜クイズ」を行いました。

県産畜産物消費拡大街頭活動

経済連は、8月23日、熊本市の通りアーケード内と健軍商店街において、県産畜産物の消費を呼びかける街頭活動を行いました。

飼料原料価格の高騰が長期化し、畜産経営がさらに厳しい見通しとなっているなか、畜産物価格への理解を促す必要があると見られます。そこで、継続的に街頭活動を行うことにより、県産畜産物の消費拡大を目指すことが目的。

チラシや鶏卵・牛乳などを配布し、日本の畜産物の生産の維持のための理解を訴えました。参加したのは、J A くまもと肉牛銘柄推進協議会、くまもとりんどうポーク銘柄推進協議会、総合農協酪農担当者連絡協議会、熊本県養鶏協会などの畜産農家ら。「これから消費者の皆さんに国産を届けたい。消費者の皆さんの応援が何よりも必要です。」と呼びかけました。

同連合会では、今後、畜産物だけに限らず、他の生産物の消費拡大への街頭活動も行っていきます。



チラシを配布する生産者ら

J A 生産部会女性部との意見
交換会



意見交換会で意見を述べる生産部会女性部

熊本県青果物消費拡大協議会と経済連は、8月4日コマネスクリゾート菊南で、J A 生産部会女性部との意見交換会を開催しました。県内9 J A より女性部代表他およそ80名の、すいか・メロン、イチゴ・なすやトマト類などの生産部会が参加。

経済連の上村幸男会長より、主催者を代表して「消費宣伝活動を販売戦略の大きな柱と位置づけ、県下 J A、生産部会・女性部と連携を取りながら、一体となった取組みを進めていきたい」と挨拶。

意見交換では、「販売促進を行う J A の専門家を作ってはどうか」や、「肥料や燃料が高騰しているが、経済連としてどう考えているのか」など、意見が出されました。

同協議会がこのような女性部を集めた会議を開催するのは、今回が3回目。どんどん農業に女性の意見を取り入れ、販売促進のために、これからも意見交換会を開催する予定。

JAバンク

JAバンクより県内小学校へ食農教育本贈呈

今般、JA、信連、農林中央金庫によるJAバンクにおいて、「JAバンク食農教育応援事業」を創設しました。この事業は、次世代を担う子ども達に農業についての理解を広げてもうこうとを目的として、JAバンクが主体となり多面的な教育活動の実践を予定しています。その具体的な取組みの一つとして、「農業と食」「農業と環境」「農業と経済」等をテーマとする補助教材を制作し、全国の小学校に贈呈することとしました。



山本教育長（右から2番目）、阿南教育次長（一番目）とJA関係者



食農教育本3冊セット

熊本県では、県内全小学校5年生と教師分として、約20,000冊を、冊数で約60,000冊を用意し、最寄りのJAより市町村教育委員会へ説明の後、各小学校に寄贈することとしています。それに先駆けて、8月18日（月）に熊本県教育委員会に対して、教材の贈呈式が行われました。贈呈式において、本事業の主旨の説明、熊本県内における教材の活用を依頼しました。子ども達が、この教材による学習を通じて、農業生産や農産物流通の現状、食品の価格形成の仕組み、農山村や里山が果たす環境保全機能など、農業に対する理解を深めていくことを期待しています。

JA共済連

JA共済の仮設住宅

JA共済では、加入者への「ひと・いえ・くるま」の保障による安心の提供とあわせ、生活を支援するためのさまざまな福祉サービスを行っています。この福祉サービスの一環として、火災や自然災害により住宅が居住できなくなった場合、JA共済の「仮設住宅」を8ヶ月間無料で貸し出し、被災者家族の当面の住まいと暮らしを支援しています。

もしものとき、ご家族を応援する住まいです

火災や自然災害により、明日の住まいに困ったら……JA共済の「仮設住宅」がご家族の生活をサポートします。ご利用は8か月間無料。もちろんキッチン、トイレ、お風呂など、生活に必要なものはあらかじめ備わっているので安心です。JAの長期共済等にご契約の皆さまなら、どなたでもお使いいただけます。

JA共済

住宅のタイプは、4坪、6坪、8坪の3つ。キッチン、トイレ、お風呂など生活に必要なものはあらかじめ備わっているので安心です。JAの長期共済等にご契約の皆さまならどなたでもご利用いただけます。（一定の要件を満たす方に限ります）詳しくは、JA窓口までお尋ねください。

◆ご利用できる方◆

JA共済の生命総合共済、建物更生活共済、火災共済のいずれかにご契約の方で、ご契約者の方が所有し自己の居住の用に供している住宅が、火災等または自然災害により居住できなくなった方。

あじがわ

● 中国から伝わった一株の球根から日本各地に広まったと言う。この生命力の強さを見習いたいものです。



九月に咲く花【彼岸花】

ヒガンバナの名は、お彼岸の頃、開花することから呼ばれています。
 真っ赤に燃え上がるような赤い花が一面に咲き、また、一面に枯れてしまつ「はかなさ」もあり神秘的な魅力があります。
 韓国では、秋に、真っ赤な花を咲かせ、冬には細長い葉だけが茂っていることから、花は葉を想い、葉は花を想うと言われ「サンチヨ（相思花）」とも呼ばれています。
 （花ことば） 想うはあなた一人
 ヒガンバナ科／多年草／中国

● 盟友の皆様のご意見や 周辺地域の話題、写真等、各地区の総支部・支部（JA本・支所）へお寄せいただければ幸いです。
 連絡先 熊本県農政連

電話 096-1328-11284
 FAX 096-1326-5807

頑張つてね、走りも、勉強も

JAの定期積金で
 教育資金を準備しよう。

JAの定期積金

毎月ムリなく、コツコツと。目標額を決める、掛け金を決める、期間を決めるなどお好みの方法が選べます。

JAバンク

しよく

みんなの
 よい食
 プロジェクト

JAグループ

「よい食プロジェクト」を展開します。

JAグループでは、生活者の食料についての不安や不信の高まりによる、安全・安心な国産農畜産物や日本農業への関心が従来にもまして高まってきている状況をふまえ、「みんなのよい食プロジェクト」を始動させました。
 このプロジェクトは、これからの日本人にとって「よい食」とは何かを、日本の農家とJAグループ、そして消費者のみなさんが一緒になって考え、行動していく運動です。

JA 熊本中央会

人生は、「建て直せる」。

JA共済

地震や台風、火災、大雪、いつ起きるかわからない災害から、心強い保障で、あなたの家を守り、新たな生活を築きます。いざという時、安心という名の大きな勇気をあなたと家族に。

建物再生共済
むてき

自然災害・火災の被害からの再建をサポート。

詳しくはお近くのJA（農協）へお問い合わせください。
 ■建物再生共済のお見積りサービス実施中 <http://e-service.ja-kyosai.or.jp/>
 ■ホームページアドレス <http://www.ja-kyosai.or.jp>

みんなにサンキューキャンペーン実施中! <http://www.3qja.jp> 08481050148

JA HOUSE

彩希の家

自由設計・注文住宅

7月15日 ▶ 10月30日

サマーキャンペーン

家族で愉しむ
 安心・快適な住まい。

シリーズ フリープラン
 健康を楽しむ、木の育りのする家。

キャンペーン期間中 彩希の家で成約の方に
システムキッチン
(付:食洗機・食器棚付)メーカー限定

限定10棟 **プレゼント!**

52%OFF

お問い合わせ・お申し込みは **最寄りのJA** または **JA HOUSE**

JA HOUSE TEL 096-344-6340

打合せからアフターまで
 JAグループが責任を持って
 対応します。

建設業許可登録 熊本県知事許可(特-0)12300号
 設計事務所登録 熊本県知事登録第2730号

(株)エーコーブ熊本 住宅事業部 〒860-0085 熊本県熊本市高平2丁目25番57号